

参加者より発表①「立憲主義に基づく憲法改正とは」

- 立憲主義とはイギリス中世で発生した「Constitution のみが主権者」と考える政治思想であり、明治以降に日本に入ってきた思想。
- Constitution は、成文憲法だけでなく、慣習法や国体といった広い意味を含む
- 明文化されていない慣習やマグナカルタのような歴史的文書も憲法体系と認識されている
- 立憲主義における Constitution は法的伝統やこれまでの人類の叡智、慣習を上位概念に置く
- 過去との断絶を経た人工国家が作る独立宣言や成文憲法とは異なる

【参考】茂木健一郎さんの憲法に対する考え（日経新聞より）

- 憲法について、日本の憲法論議は条文主義に陥っており、戦後の日本政治はその時々で妥当な判断をしてきた。
- しかし、条文を制定していれば、それで上手くいくわけではない。
- 脳科学の観点からいくと、人間の生活や人生はルールの集合だけで上手くいくものではない、と証明されている。

【参考】”ノリ”の法体系を我が国の憲法と考える。*我が国の憲法は「ノリノリ」である。

- 日本語で規範を表す言葉は全て”ノリ”と読む。（憲・則・法・規・典・範など）
- 元来、その年の農作物の豊穰を願い、神様に「祝詞(のりと)」をあげる風習がある。“ノリ”の語源は、意を「宣る(のる)」＝自らの願いを宣言すること。
- 日本における祝詞は、「神様に対して、ひたすら励んで、稲を育み、献上しますと自分で宣言したからには、みんなで協力して頑張る。共助社会では一人の意思ではなく、「みんなのために頑張る」という想いから発せられるもの。
- “ノリ”は、教義や権力から押し付けられたルールではなく、心を一つにまつろう中で自然に発生してきたもの
- この考え方こそ、日本の立憲主義にある”ノリ”の法体系だと考える

ちなみにアメリカの憲法は・・・

- アメリカでは憲法改正ができず、一度作られた条項自体を修正や削除できない。そのため、奴隷条項、女性に参政権与えない、禁酒などは、今でも記載されている。
- そこで、修正第一条など、加憲をする形で、書き換え・修正を行う。

不文の憲法体系を維持すべきであった

- 成文憲法を作ることとなった明治維新において、薩長による倒幕は、革命的ではあったが、天皇がいなければなし得ない出来事であった。
- 革命として、過去を全て否定し、成文憲法を作るのであれば、フランス革命のようなあり方でよかったかもしれないが、そうではなかったために、革命的行動を取るべきではなかった
- 成文憲法を作る上で、日本の国柄を最大限組み込もうという努力もあったが、天皇機関説などの文脈は戦争や侵略に利用されたと考えられる。
- 日本は本来、歴史の長い国である。イギリスがマグナカルタを憲法とするならば、日本でも古事記や神武建国の詔、十七条の憲法なども憲法に含めて良いはずだ。これまでのあらゆる“のり”が、憲法として含まれるのではないだろうか。
- だからこそ、「憲法を起草する会」では現行の成文憲法に集中した議論ではなく、日本における”のり”について議論している。

荒谷先生がなぜ熊野に移ったのか

- 成文憲法とは違い、生活する上での規範は、我々一人一人が作っていかなければならない。
- 日々どのような生き方をしていくべきか、ということが、これからどのような憲法を作っていくのか、ということにつながる。
- 日々田畑を耕し、武道に励み、学び、近隣と共同体を作っていくということを、我々一人一人が、それぞれの持ち場でやっていくべきだと思う。

参加者よりの発表②山田さんより「新型コロナウイルスと NOW」

- BIH 傘下アレルギー感染症研究所所長 Dr.ファウチ主導で、新型コロナウイルスの研究が進められた。その後、トランプ大統領が研究を禁止し、中国武漢へ機関は売却された。
- 当機関が統計データを集計したところ致死率が想定よりも低かったため、パンデミックからインフォデミックへ切り替えた想定される。
ショックドクトリンによるインフォデミック
 - ①春節による海外旅行を利用し、呼吸器系の菌やウイルスをばらまく。
 - ②PCR 検査をかければ何でも陽性が出るよう仕向ける。
 - ③マスメディアを用いてインフォデミックとする。

新型コロナウイルスの証明ができない

1. 病原体であることを証明できない
2. 試験管に単独で入れた新型コロナウイルスは存在しない
3. 最初に中国が作成した論文のデータはデタラメであった
4. ファイザーのワクチン説明書には「ワクチンの遺伝子情報は患者から直接とったものではない」と記載がある
5. 国立感染症研究所は新型コロナウイルスの存在を証明する標本やデータは存在しないと認めている

→ウイルスが発症する、他人に移す、重症化するなどは、不明なことである

→PCR 検査自体も、コロナウイルスの感染を特定することはできない

ワクチンによる死亡者と嘘

1. ワクチンを打っていれば「コロナ死ではない」判定となる
2. ワクチンの副反応のために死亡しても同様の取り扱い
3. 自然死や事故死であっても、コロナ陽性の場合、コロナ死とされる

- 2021年9月の日本の超過死亡者は6万人を超えている。また、日本の総人口を追うと60万人以上亡くなっているようにも見られる。

- ワクチンを打った後にどの国も死亡者が増えている

→ワクチンを打つことによる健康被害は多種あり、その目的は人口削減や断種と考えられる。

進められる NWO

- 1974年8月世界人口会議にて5億人まで減らすと断言。ワクチン、自然災害、飢餓等がその手法とされた。
- Dr. Astrid Stuckelberger (アストリッド・スタッケルバーガー博士) より、本計画は優生思想の考え方に基づく、計画されたパンデミックであると、告発。
- ファイザー社マイク・イードン博士より、最初のワクチン接種で0.8%の人々が2週間以内に死亡する点、ブースター接種で余命は短くなる点など指摘。パンデミックの計画も暴露。(Phase1~6まで)
- Twitter, Google, Facebook (Instagram), Youtube, Pfizer などの情報統制
他の検索エンジンを使うと出てくる情報も上記では統制されている。
- 2022年5月オミクロン株を実行した場合の対応をメディアを通じて指令伝達をしていた。ニュース番組はNWOからの指令連絡の伝達手段となっている。

日本の現状

1. 政府の政策、省庁の対応を見ればNWOに準じている。
2. 野党は通常与党の対局として存在するが、NWO制作の要となる政策は与野党は歩調を合わせ法案を追加させている。
3. 日本の医療業界は利権により加担している。

私たちが対策出来ること

少数は多数に勝てないため、このような情報を知られないように画策している。行動すれば行動するほど、彼らは困るため、行動することが大切。

1. 自分の周囲に知らせる
2. 意見書を出す
3. 接種会場などに連絡する

参加者からのご質問

Q. 上記内容で推測部分があれば教えて欲しい

→ 「当機関が統計データを集計したところ致死率が想定よりも低かったため、パンデミックからインフォデミックへ切り替えた」と想定される。」という部分は推定です。

Q. NWO についてご説明ください

→NWO=New World Order（新世界秩序）。一部のパワーエリート(上級国民)がその他の国民を効率よく管理するという思想。ムーンショット計画と連動しており、その計画を見るとどのように国民を管理したいのか、理解できると思います。

おやじさん講話

日本における世界再編の計画と歴史

- 大東亜戦争以降の GHQ による軍事占領期間 7 年の間に、日本の制度や慣習が組み替えられた。（軍事占領期間が 7 年間もあったことは歴史的に見ても非常に長い）
- 実は、GHQ が米国に拠点を移した後の政策の方が新世界秩序の推進に効いている。
- 外交問題評議会という米国の対外政策決定に対して著しい影響力を持つ組織。彼らが刊行する「Foreign Affairs」誌にジョージ・F・ケナンによる X 論文が掲載。この論文を契機に、米国の政策は「対共産主義」へと舵を切る。
※第二次世界大戦において共産主義も資本主義もグローバリゼーションを目指したが、資本主義は私有財産を、共産主義は共有財産を中核にする点で本質が異なる。
- この辺りから、日本占領・統治のコンセプトが「日本の国力を落として、国際政治から落とすことから、グローバリズムに活用すること」へ転換した。
- アメリカ対日協議会等、あらゆる方面（政治、経済、外交、医療など）で、日本の管理方法を決定し、実行する組織が設立され本日まで続く。

例) 経済三団体＝経済の面で日本の政策にものを言う団体

- GHQ による財閥解体により、それまで続いてきた日本の経済団体は潰れる。
- 経済同友会は米国によって作られたもの
- 経団連は戦前より存在したが、占領下に従来の大企業や財閥の上役が粛清され、彼らにとって都合の良い人材登用とされた。
- 日本商工会議所は、本来、渋沢栄一と有志の方々が不平等条約を解消するために団結し独立を勝ち取ろうとする趣旨のため、経団連、同友会とは若干異なる側面を持つ。しかし、戦後に残っていることから、米国の意向と無関係ではないと言える。

グローバリゼーションへ敷かれた One Way

- サンフランシスコ平和条約締結以降、主権が取り戻されたように思えるが、その時には、政治家等が頑張れば頑張るほど、グローバリゼーションに突き進んでしまう”One way”が敷かれた。
- それにより、保守の政治家（愛国心を持った人々）が出ると、何故かグローバリゼーションが進んでしまう現象が起きる。

例)

中曽根政策	日本的経営、家族経営などが悪いように広まる。
細川政策	自民党は地元利益還元制度をしていたが、グローバリゼーションから見ると障壁だったため、細川政権で対処される
橋本政権	日米構造改革協議を進めていた時期。この頃より社会保障費や医療制度が変わる。お金を多く出すと良い治療が受けられる。お金がない人への救いの手段が少なくなる。税制の均質化など。

小泉政権	新自由主義政策。財政支出、金融機関規制、政策決定システムなどのグローバル化の障壁を排除する。また政策も、ワンマンで変えられる仕組みを作る。（民主主義ではなくエリート主義のグローバリストに都合が良い）
安倍政権	新保守主義改革。小泉政権の意思を引き継いでいる。 国民への発信はナショナリストだが本質的にはグローバリストであり、ガス抜きのような立場。ネオコンサバティブと言ひ、米国ではブッシュのような立場。 グローバリゼーションを進める中で個々がバラバラになると管理しづらい。ある程度まとまりを作りながら管理する方が楽なので、ナショナリズムを高揚したり、排外主義的な発言をしたりすると、日本人がまとまる。だが、推進している政策は新自由主義政策である。

- グローバル化という One Way を外れようとするとはパージ(Purge)される仕組み。
- 現状を変えようと頑張る人を出すとグローバル化が進んでしまう。反対に、何もやらない首相が出ると物事が進まないで意外にもグローバル化は進まない。

グローバル化すると

- 自治権を喪失
- 社会規範と価値の規定は他から与えられる
- 従属しないと社会的に排除される
- 他に依存してしか生きていけない
- 権力と実力と情報は管理される
- 認識と思考の自由は社会的に制限される
- 国防の機能が失われる

日本は、物理的にも精神的にも、仕組みとして、米国およびその背後にあるグローバリストの完全なる支配下にある。私たちは米国およびグローバリストの管理する日本という地域で、日本人ではない日本国民として生かされている。

日本人という価値を皆さんで考えていきたい。日本の文化や歴史を語るとパージされる現状。気合と根性がないと日本人として生きていけない。

そのような状況を理解した上で、じゃあ何をするか、と考へないと何もできない。仕組みとして作られているので、どんなに良い代議士を送っても、成果が出ない。既存の仕組み上では動きようがない。

ベン・グリオン回顧録

- イスラエルの建国の話
- 2000年近く、国を失って彷徨った空白の時間がありながら、突如として、自分たちの土地に自分たちの国を回復した。
- “われわれは、精神のバイタリティーを維持することによってのみ、生き残ることができる”
→イスラエル建国には、フランス系ロスチャイルドの資金提供があったが、ベン・グリオンは、お金ではなく、精神のバイタリティーがあったから成しえたことだと名言。（お金がないとダメ、権力がないとダメ、という思想ではない。）

ユダヤ人が民族の自信を回復した出来事

- 啓蒙文学運動による聖書の影響の復活：自分たちの民族の神話について学び、自分たちには使命があることを強く感じさせた。日本人で言えば古事記。日本人としての根源、日本人とはなんなのか、日本という国はなんなのか、なぜ出来たのか、何を精神の拠り所にしてきたのか、ということを引きちんと理解し、自覚する。
- 欧州での革命：革命によって社会の大きな転換が起きていた社会状況がタイミングとしてのトリガーとなった。
- 民族郷土との直接的接触：そのタイミングで起きたシオニズム運動によって、最初は少数のユダヤ人が実際に市内に戻って、エルサレムの土地の上に立ち、暮らしを始めた。

→啓蒙文学運動で自民族への知識を得、郷土との直接的接触により感動し、社会革命により時代の潮流に乗った。

ユダヤ人の共同体構築（実際にイスラエルの方にインタビューした内容を紹介）

- キブツ（産業基盤を持つ集団）とモシャブ（家族的農業集団）を改めて作り直す。コミュニティとしての意識を具現化。
- キブツとモシャブは、社会、文化、軍隊に大きな貢献を果たした。教育制度は、無私無欲の感覚と社会的責任を育てた。
- 毎週定例会議を行い、共同体全体で、全ての主要な決定がなされる。
- キブツやモシャブ以外で仕事している人々もいるが、彼らの収入は全て、属するキブツやモシャブの収入となる。個人の資産という感覚はない。
- モシャブは主に農業を、キブツは淘汰されたが、生き残った共同体は強い産業基盤を持つ。
- 原則として、全てのメンバーが同じ収入を得る。一時金、手当(服、レジャー等)、研究や趣味は余分な予算としてみんなで決めて支出する。
- 共同体内の紛争や犯罪は、内輪で解決することが原則。
- 共同体内で税金のような基金の仕組みがあり、ストックしているものを社会保障に充てる。
- 加盟者が退去する場合は、元の社会に戻って生活する。

参考にできること

- 共同体の自立には、社会的・経済的・軍事的な能力が必要
- 共同体の意識は、民族の歴史伝統と実態としての共同生活によって育まれる
- 共同体の意思決定は、紙に書かれた規定ではなく、全員の心情的合意によってなされる（楠木正成は息子へ「庶民の現実の生活は文言で規定できるものではない」と伝えている）
- 共同体の中では「私有」という概念は全くなく、衣服でさえ共同体のものとする（私有ということに対して文化的抵抗感を日本人は持ちやすいのではないか）
- 個人主義を壊すには、個人に帰属する地位、階級、財産、名誉、権利などの価値をなくす
- 共同体の中で国家を先導する見本となる社会を創り出す（国家というものは、共同体の仕組みが大きくなったものとする。自分たちの最も近い集団がそのまま国家の見本でないといけない。末端がいい社会であれば、強烈的な管理や強制は必要ない）
- 歴史の大きな流れの中に存在するという意識を持って歴史に貢献できるように生きる（歴史と断絶すると日本文化は終わる。私という個人は、日本という歴史の中に存在しているという意識。その歴史の中で自分が何をすべきか、と考え実行する。自分の生きている間に完成する必要はなく、今できることをやる、そして自分の子供や孫に続きをやってもらう、という意識）
- “日本の社会はモシャブ（家族的共同体）そのものだ。”
インタビューしたユダヤ人の彼は「羨ましい」と言っていた。外から見るととても家族的な社会だと思ってもらえている。制度的な仕組み等は崩壊しているが、現実的には家族的な社会を営んでいる。まだまだ大丈夫。しかし、自覚が必要。

日本復活の条件

- 日本人として生きる不撓不屈の精神（朗らかに、にこやかに、楽しく、日本人をやっていきましょう）
- 日本神話の教育普及（日本人のこれまでの歴史・伝統・文化を学んでいく）
- コロナ禍の社会革命下に日本の価値を再認識（全人類の革命期であり、社会基盤を変えようとしている。安定期ではなかなか動かないからこそ、時期的にチャンス）
- 原日本風土との直接接触（今みなさんは日本にいますが、アスファルトを踏んでいるとわからない。日本の原風景を作っていく必要がある。ご先祖が何世代もかけて一生懸命作った黄金に輝く稲穂の風景を取り戻したい）

日本自治会

- 衣食住の安定を確保するということが本来の共同体の目的であり、それを為すために政治・行政・司法を分けることは難しいものである。

- 農業（家族型）と企業（社員型）の団体。企業は三方よしで、利益主導でやるのではない。社員はみんな家族的で死ぬまでみんな面倒みるぞ、という思想があると良い。
- 日本自治会が将来的には日本の政府になる、という気概でやる。
- 日本人として声を上げる国民集会。「くにたみの声（思い、祈り）」
- 朝集侍 国民の声（思、祈）東京（大阪）/みかどにうごなわりはべるくにたみのこえ
自分たちの願いや祈りを奏上するために、みんなで集まり、祝詞として奏上することを、うごなわりはべる、という。

参考資料「大化の改新の詔」

- 「公地公民」が趣旨。当時、土地や国民を私有化した人たちを戒めたもの。
- 日本の国土はイザナミ、イザナギが作ったもので「私」のものではない。個人で個人を支配する、私有化する、ということは、「しろしめす」ことで国を統治する大国主の国譲りに即していない。
- 歴代の天皇は土地を私有化しようとする動きがあると、度々、私有化を戒める詔を出している。
- 租庸調においても、個々の豪族が勝手に民衆から徴収していたため、上限を設けた。当時は、取れ高に対する4%の租税を上限とした（現在は約70%の税を実態として納めている...!）
- 各々の村落に鐘を配置し、意見がある場合は鐘を叩いて申し出て欲しい、という詔勅を出す
- このように天皇が世の中を良くしようと詔勅したところ、京都に国民が集まってきた。その人々のことを「みかどにうごなわりはべる国民」と称し、彼らの声を聞き、その声をもとにより国を作っていく、という趣旨の詔を出された。

共同体を作るにあたって、神武天皇建国の意思を表したい、と私自身は思う。神武天皇の意思を継ぎ、国民が頑張って社会を作り、何か変な方向に向かった時は、天皇がまた軌道修正し、国民の声を聞いて、またその声をもとに社会を作る、ということを何度も何度も繰り返してきたのが日本の歴史。自分たち民族で、回復能力を持ち、禊・祓をしていた。その変える力になっていたのは、政治家や権力者ではなく、天皇陛下と国民であった。

参加者からのご意見

モシャブの在り方の中で個人所有の意識はない、とあった。崇高なキリスト教的な教義からくる合理性で考えると西洋には合うように感じます。しかし、非合理的な八百万の神がいる日本人の感覚からすると、合わないかもしれないと感じました。

16:45 ～ 16:55 休憩

16:55 ～ 17:55 衆議

日本自治会構想への想い（おやじさんより）

憲法起草の会はそもそも、新しい成文憲法を作ることを目的とはしていない。当初行なっていた憲法を起草する会では、「国民が日本の政治・行政・司法に対して、あまりにも当事者意識が欠けているのではないか」という問題意識を持っていた。成文憲法を作ることを専門家に任せるといわゆるパワーエリート主義となる。我々の社会における我々のルールを作っていくことも必要だが、実際に実践していくことが大切である。自分たちの思いを自分たちで実践していく。その意識の高揚を図りたい。そういうことができる会になれば良いし、そういう場に皆さんの知り合いが来てほしいので、より参加しやすい場となるように名前を出しあっていきたい。

グループ1

- 日本自治会はシンプルで良い。自分たちで治める、という趣旨を的確かつ短くまとめられている。

グループ2

- やまことばを使ったものが良い。色々な人が入りやすい方がいい。
- 会の名前より実態がしっかりしていることが重要だという議論も行なう。

- 「お米をつくる会」今後の大規模な不況なども想定し、放棄された農地で土日だけでも農業に勤しむのも必要だ、という議論のなかで、出てきたアイデア

グループ3

- 「国民の声」は良い。日本が日本として継続してきたものを良しとする人々の集まりであり、その声を集めるという意味で良い名前。
- 学会を作るアイデアも出た。学会を作ることで邪魔されづらく、非営利団体であることでお金の工面もしやすく、機関紙への掲載もできる。今後、ネットワーキングを実行する場として活用できるのでは。

グループ5

- 「日本自治会」が良い。自立した生き延びるための自治会を作る必要がある。
- 「むすびの会」が良い。名前で目的を明確に出すよりもざっくりとした名前が良い。
- 「またよからずやの会」神武天皇の建国の詔の最後「またよからずや」から引用

グループ6

- 「国民の声」が良い。あまり堅くない柔らかいものが良いため。
- どのような活動をするのか？という点で「堂々と国旗を掲げましょう」という声かけからできるといいですねという話もした。

グループ7

- 少しでも迎合したり柔らかいものにすると、その会の本質からずれてしまうし、硬い名前であつても来る人とはご縁がある。そういう意味では、硬い名前でもいいと思います。
- この会をやったことで、皆さんの家庭の中でどのような変化があったのか、というシェアがあると、自分にとって一番小さいコミュニティである家庭にもこの会を勧められて嬉しい。

グループ8

- 古来の縄文人がどのようなコミュニケーションや文化を持っているのか、という話で盛り上がってしまった
- 資本主義が入っていない柔らかくもあり、音律がどしんと響き渡るような、間口が高いようで低いような絶妙な言葉が見つかるといいなと思います。

グループ9

- 名前は変えた方が良いという結論に至りました。日本自治会は地域協会と混同されるのではないか、という懸念が出ました。
- 「やまと」という言葉を用いる。人が集まっているところ、組織の始まりという意味。分かりやすい言葉のため。
- グループ内で漢字一文字を挙げてみました。（護、礎、など）

グループ10

- 「日本～」という言葉がつくと、若い人は集まりずらさがある。
- 会の名前自体はシンプルで良い。副題で何をやっているのか分かれば良い。
- 「日本で良いよね」「八州連合」「ノリノリ」「シャモブ」「むすびの会～共助共創の世界を創る～」
- 「日本自治学会」はすでに存在する組織がある

親父さんより

ご意見ありがとうございます。皆さんの様々な意見を拝聴し、皆さんの思いを感じられて、非常にありがたいです。直会は食を共にするという非常に大切な日本の文化だと思っているので、できるだけ多くの方に参加いただきたいと思っております。